



NUNO (布研究所)

NUNOは、日本各地の染織産地で新しい素材や産地ならではの伝統技術による独創的な布づくりを行っている。昭和59年（1984）、桐生市出身の世界的テキスタイルプランナー・新井淳一氏が同社を設立。その後、昭和62年（1987）には新井氏は経営から退き、設立時のメンバーで同じく日本を代表するテキスタイルデザイナー・須藤玲子氏が代表を引き継ぎ、今日まで優れた国産テキスタイルを世界に発信し続けている。東京六本木に本部となるアトリエ、ショップを構える一方、平成5年（1993）、桐生に生産管理と制作を行う「布研究所」を置き、産地に直結する拠点としている。

NUNOのコンセプトは、人の皮膚から五感に働きかけ様々な情報を伝えるテキスタイルを、「ことば」を超えた「ことば」と捉え、テキスタイルと人、人と人との交流をより豊かにすること。そのコンセプトから生まれる独創的なデザインは、富士吉田、和歌山、京都、山形（鶴岡）、そして桐生のような繊維産地で伝統技術を継承する職人により息が吹き込まれ、形づくられる。代表作の一つ「折り紙プリーツ」（写真上）はハンドプリーツが造り出す独特な立体感が特徴のテキスタイルで、すべての制作工程は桐生で行われている。「折り紙プリーツ」をはじめ、多様なNUNOのテキスタイルは世界的に高く評価され、ニューヨーク近代美術館（MoMA）や世界各国の美術館で展示・収蔵されている。

NUNOは、独創的かつ意欲的、芸術品を思わせる自社製品を、あくまで工場の機械で織る「工業製品」と位置付け、日本各地の伝統技術、先端技術を世界基準の染織産業へ昇華させる。その生産活動を通じて、全国の染織産地を繋ぎ、力を引き出すキュレーターとして、日本の染織を世界に発信し続けている。



国産テキスタイルで世界を魅了
産地を繋ぐキュレーター

【NUNO】

- 場所／東京都港区六本木5-17-1 AXISビルB1F
- HP／<http://www.nuno.com/>

【布研究所】

- 場所／桐生市広沢町4-2383-4
- 電話／0277-52-1295